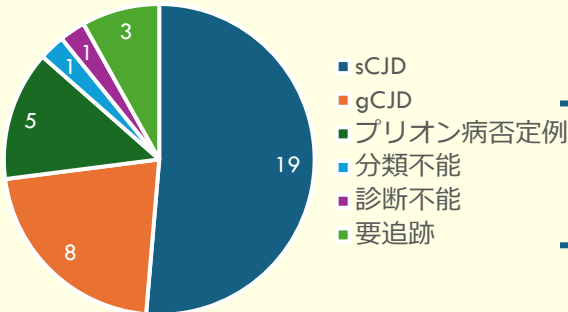


2025年 愛知、岐阜、三重の 3県におけるプリオン病サーベイランス結果

研究分担者: 愛知医科大学神経内科 熱田直樹

1 報告37症例 内訳

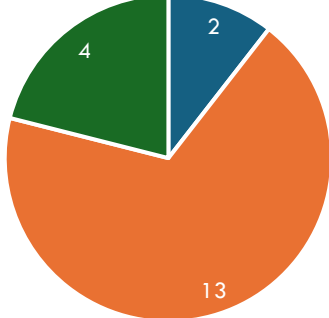


プリオン病否定例 5例

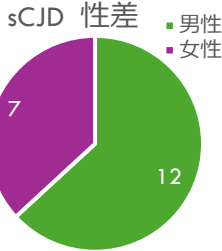
- ・肝性脳症
- ・痙攣後脳症
- ・脳梗塞後遺症
- ・認知症
- ・脳炎後遺症

硬膜移植の可能性が高く、分類不能 1例
死亡により診断不能 1例
要追跡 3例

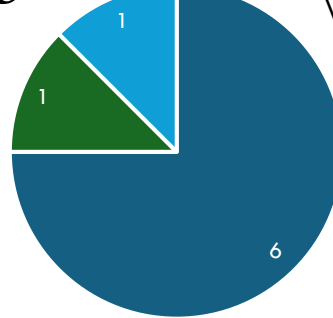
2 sCJD 19例 内訳



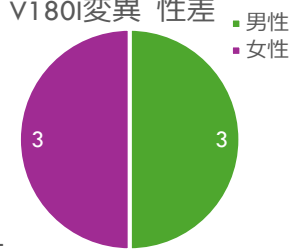
sCJD平均発症年齢：
72.0 (±10.11)歳



3 gCJD 8例 内訳



V180I変異 平均発症年齢：
83.5 (±5.34)歳



4 sCJD症例、プリオン病否定例における14-3-3蛋白、rt-QUICの陽性率

※2項目揃っている症例を抽出

		14-3-3蛋白	rt-QUIC
sCJD 確実例	0例	—	—
sCJD (ほぼ確実例)	10例	100%	100%
sCJD 疑い例	4例	100%	25%
否定例	5例	40%	0%

解 説

1. 2025年2月と9月に検討委員会において検討したのは37例であった。37例のうち、sCJDは19例、gCJDは8例。プリオン病否定例は5例、硬膜移植の可能性が高い例が1例、死亡により診断不能は1例、要追跡は3例であった。

2. sCJD 19例(確実例 2例、ほぼ確実例 13例、疑い例 4例)の平均発症年齢は72.0 (±10.11)歳で、男女比は男性12例、女性7例であった。

3. gCJD 8例はV180I変異 6例、M232R変異 0例、E200K変異 1例、GSS(P102L変異) 1例。V180I変異症例は平均発症年齢 83.5 (±5.34)歳で男性 3例、女性 3例であった。

4. sCJD症例、プリオン病否定例における14-3-3蛋白、rt-QUICの陽性率は、既報告同様にrt-QUICの特異度が高かった。